

緑山河

第12号

平成11年 5月15日

発行

社団法人 沼津牧水会

目次

めぐりあいの不思議	2
牧水顕彰全国大会	4
感謝をこめて	6
各地からのメッセージ	7
第45回沼津牧水祭	
碑前祭芝酒盛	20
短歌大会	21
第11回雛の歌会	22
文化講座	23
若山牧水の歌にちなんだ	
沼津市周辺の風景写真展	24
サロン音楽の夕べ	26
平成10年度事業報告	27
定款・編集後記	28



めぐりあいの不思議

榎^{えの}本^{もと}篁^{むら}子^こ

沼津市制五周年祝賀の歌

若山牧水

千本浜だよ 緑の波が
寄せて返せば はや一昔

昔話は いまさておいて

今日の沼津の 繁昌さよ

繁昌ぶりだよ これ見よ見よと
今日の祝ひの めでたさよ

(昭和三年七月一日沼津市の要請で詠んだもの。牧水も式典に出席している。)

この歌から七十年を経た平成十年十月十七日、沼津市はじめ近隣市町村、沼津牧水会のお力で没後七十周年記念「牧水顕彰全国大会」が開催されました。全国の牧水縁ゆかりの地から本場に沢山の方々がおいで下さり、それぞれの地の牧水顕彰についてのお話や翌日の芝酒盛りなど、改めて親睦を深めた二日間でした。会が盛大であればあるほど、その御熱意と御厚情に対して御礼申し上げるのが父旅人であつたらと、それだけが申し訳もなく又残念でございました。昨年こぞの元日「今年こぞは大事な年だね、それまでは頑張らねばねえ」と秋の記念行事のことが新年の父との話題となつていただけに、旅人もさぞ心残りであつたらうと……

当日のために作つて下さつた大会資料冒頭に引用されていた歌集『独り歌へる』序の牧水の言葉

私は常に思つて居る、人生は旅である、我等は忽然として無窮より生れ、忽然として無窮のおくに往つてしまふ、その間の一歩々々の歩みは実にその時のみの一歩々々で、一度往いては再びかへらない、私は私の歌を以て私の旅のその一歩々々のひびきであると思ひなして居る、言ひ換へれば私の歌はその時々の私の命の碎片である。

や、芭蕉が辞世の句をと乞われたとき応えたといわれる

われ生涯言ひすてし句々一句として辞世ならざるはなし

のように旅人も自身の年齢を思えばそれこそ一期一会のところで、それぞれの地で、それぞれの時に「命の碎片」としての御礼を申し上げていたことと、それを以てお許しいただきたいと御挨拶せずにはいられませんでした。



平成十一年も早三月、間もなく父の一周忌を迎えます。牧水次男富士人、長男旅人が相次いで他界したことにより若山家で直接牧水を知る者はいなくなりましたが、この一年の様々なことを思い出しますと縁の不思議をあらためて感ぜずいられません。

ある時の父の話に、牧水が亡くなる半月前の八月三十一日、旅人・岬・真木子・富士人の四人兄妹は朝から千本浜で泳ぎに興じていた。そこへ不意に牧水が現れ得意ないつもの水府流ではなく「いかぬき」で旅人の処まで泳いできて「おうっ」と呼びかけてすぐ上がって行ったとのこと。子供たちの夏休み最後の姿を見てやろうかと云うことだったと思うけれど、翌日からは床に就き、十七日に亡くなったわけだから体力的にはとても無理であったはずの牧水が、こよなく愛した千本浜に、千本松原に、別れを告げに来たのだらうと申ししたことがありました。

その父が平成九年九月末、沼津市若山牧水記念館開館十周年記念行事の一つとしてのミニチュアの牧水旧居が完成し、その御披露にどうしても行くとして、無理を押し沼津へ参りましたが、旅人の遠出の最後でございました。奇しくも牧水と旅人親子が、心から愛した沼津にきちんと暇乞いをして旅立ったのではないかと、冒頭の沼津市への祝歌と牧水没後七十周年行事の因縁も併せて

人生は深い縁の不思議な出合だ

めぐりあいのふしぎにてをあわせよう (坂村真民)

の不思議を深く思ったことでございます。

祖父牧水・父旅人が愛した沼津の牧水記念館館長に、しかも没後七十年という大きな節目の年に就任いたしました。一年がたちました。今まで父の付き添いなどで牧水ゆかりの地をお訪ねしておりました私ですが、また象を変えてスタートした全国牧水関係の様々な行事、取材、資料の整理等、責任の重さを痛感した一年でございます。これからも沼津の皆様のお仲間に入れていただいで、微力ながら励んで参りたいと存じておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

牧水ファン沼津に集う



去る平成十年十月十七日、若山牧水没後七十周年を記念して「牧水顕彰全国大会」が沼津東急ホテルにおいて開催された。台風接近の悪天候にもかかわらず、地元沼津のお客さんはもちろんのこと、牧水生誕の地や牧水が旅をして歩いた所など、ゆかりの土地から行政関係者や顕彰団体のメンバー約六百五十人が参加した。

第一部は「牧水縁ゆかりの地からのメッセージ」。主催者を代表して齋藤衛沼津市長、全国大会実行委員長五月女武沼津市教育長の挨拶に続き、牧水歌碑のある市町村を代表して北海道幕別町助役清水雅氏、五所川原市助役菊池富美雄氏、秋田市長石川錬治郎氏、群馬県中之条町歴史民俗資料館館長唐澤定市氏、群馬県六合むつろく村前教育長中沢久吉氏、所沢市「健海と牧水の碑を守る会」会長仲辰雄氏、東京牧水会事務局長田原大三氏、横須賀市北下浦観光協会会長青木栄治氏、岡山県哲西町の牧水顕彰会会長羽場幹恵氏、若山牧水延岡顕彰会会長長川並俊一氏、日向牧水顕彰会会長渡邊邦彦氏、東郷町助役山本一正氏の十二人が壇上に上り、沼津牧水会林理事長の司会で各地の顕彰活動を発表した。また、壇上には上られなかったが、哲西町長深井正氏、延岡市長櫻井哲雄氏、宮崎県文化振興課長佐伯勝利氏等の方々が、ご多忙の中、ご遠方から参加された。

北から南まで全国におよぶ牧水の足跡は、歌碑建立や牧水祭の開催、そして牧水賞の設立など各地に根付いた活動によつて確実に伝え継がれていることが発表者の熱意とともによく伝わってきた。また牧水の功績を称え後世に伝えていく活動だけでなく、その顕彰活動を行っている自治体や団体の交流の輪も広がりつつある様子がよくわかり、喜ばしいと同時にこれからの活動の励みになったことはいまでもないだろう。

四十三年の短い生涯の中で、日本国内はもちろんのこと、朝鮮にまで足をのばして旅して歩いた牧水は、各地の自然や人々の生活を自分の眼で見、肌で感じ、その感動や驚きを歌に謳った。それは、牧水自身にとって、喜びの出会い

牧水顕彰 全国大会

没後70周年記念

平成10年10月17日(土)午後2時〜午後5時

沼津東急ホテル（沼津市東白根5丁目） ●入場無料先着500名



牧水縁の地からのメッセー
ジ
ヒゲのオタマジヤクシ
岡村喬生◎歌の旅
「世界の歌と牧水をトクでつづる」

第45回沼津牧水祭

◎碑前祭と芝酒盛

10月18日(日)午前11時〜午後2時 千本浜公園牧水歌碑前



であっただけでなく、その土地の人々にも自分たちの故郷を改めて見つめる機会を与えたに違いない。新しい時代を迎えようとしている今、私たちは牧水が旅して感じたこと、考えたことそして訴えたかったことを振り返り、新たな一歩への足がかりとしていきたい。

第二部は、オペラ歌手の岡村喬生氏による「歌の旅 世界の歌と牧水をトクでつづる」ピアノ伴奏は松川儒氏。岡村氏は早稲田大学の卒業生で奇しくも牧水の後輩にあたる。新聞記者を志したものの、結局は好きな歌の道に進んだという経歴は、どこか牧水と似ていなくもない。ヒゲのオタマジヤクシの異名をとる岡村氏は、「白鳥しろとりのうた」で日本を出发し、ロシア、ドイツ、イタリア、アルゼンチン、アメリカをし

てまた日本に舞い戻り、その軽妙なおしゃべりと迫力満点のバリトンの美声で、あつという間に世界を一周する楽しい旅に私たちを誘ってくれた。

その後の交流会は膝を交えての歓談。昼間の発表では言い足りなかったことや聞き足りなかったことを語り合い、あちらこちらで交流の輪が広がった。参加者全員が牧水になつた気分でお酒を酌み交わし、短歌の朗読や歌の披露など、時の経つのも忘れて話に花が咲いた。



第II部「歌の旅」で熱唱する岡村喬生さん

折からの台風の接近にもかかわらず、没後七十周年記念牧水顕彰全国大会は、予想を遥かに超えた全国からの多数の御参加を得て、盛大に開催できました。牧水への思いの大きさに今更ながら感嘆するとともに、お集り頂きました方々に深く感謝申し上げます。

三年前、生誕百十周年の全国大会で生誕地宮崎県東郷町にお招き頂きました際、町民挙げての文化振興のまちづくりを目的の当りにし、その熱気に触れて以来、いつの日か終焉の地沼津市としても、何とかそれにふさわしい顕彰イベントを全国に呼びかけて主催しなければとの責務を覚え、教育委員会としても重い懸案としてあたためてきた次第でした。

一昨年、牧水記念館開館十周年に当り、旧居のミニチュアハウスの完成展示、十一月の「牧水と千本松原」をテーマとする集いなど、全国大会の前哨となるイベントがすでに積み重ねられ、気運が熟しております。

今回の牧水顕彰全国大会は、静岡県東部における牧水の業績の広域性を考えたとき、近隣の市町村・団体の御協力を得るのが適切と判断して、本市にとどまらず裾野市、土肥町、沼津牧水会の共催とし、さらに三島市、清水町、長泉町、函南町、戸田村、沼津観光協会の協賛を頂きました。お力をお貸し下さった御関係の多くの皆様に改めて御礼申し上げます。

この大会が充実し盛大なものとなり得た背後にはたくさんの方々の御尽力がございましたが、とりわけ次の二つの要因を特筆させて



感謝をこめて

牧水顕彰全国大会実行委員長

五月女 武

頂きます。
その一つは、企画運営の事実上の推進役を務められた林茂樹理事長の御努力、特に、全国の関係市町村に対して悉皆アンケートと聞き取り調査を実施し、今日判明する限りの牧水関係顕彰活動、団体等の動向等について集大成し、貴重な資料を編集して下さったことであります。

もう一つは、全国各地の方々の方々の大会に寄せられたみなみならぬ思いの深さでありました。各地における官民による牧水ゆかりの文化振興の動向について、なまの情報がかくも熱っぽく一堂に集積されたという事実であります。これを機に、各地域間の文化交流が一大奔流となりうるのではあるまいかとの希望と期待を濃くしたように感じております。

惜しむべきは、この集いを待望されていたにちがいない若山旅人先生が半年前に逝去され、この盛況に立会われなかつたこととございました。しかしながら、御令嬢の榎本篁子様が後任の牧水記念館館長として立派に牧水顕彰の重任を果たされておりますし、また御主人の榎本尚美先生が、非常に正確な「若山牧水歌碑インデックス」を編まれており、これが今回の全国大会の実施や情報収集の基礎資料として大いに役立つことを付記させて頂きます。

今、全国的に短歌盛行の時代を迎え、牧水の偉業を称える大会に参加できた幸せをかみしめております。ありがとうございました。

各地からのメッセーヂ

北海道幕別町

助役 清水 雅



右端が清水助役

一 幕別町と若山牧水の出会

旅を、自然を、そして酒をこよなく愛した放浪の歌人と言われる若山牧水が、喜志子夫人を伴い幕別町の途別温泉黒田旅館に着いたのは、大正十五年十月十八日のことである。

それも最初から幕別で泊る計画でなく、北海道行脚の途中、網走から夕張へ移動のため帯広で泊る予

定が、その日は演習のため帯広を離れていた兵隊が戻ってきて観兵式があり、まち全体が大騒ぎとなると言うので、一つ東寄り手前の札内駅近くの黒田旅館に午後五時頃着いたのである。

二 途別温泉滞在中

牧水が着いて驚いたことは、宿屋全体が一種の廃屋じみていて、他に客はなく炭火を山の様に熾し、徳利三、四本ずつ取り寄せ自ら燗をし相酌みながら夜を明かしたのである。

一夜明けた十九日早朝、ガラス戸を開けた途端眼を見張ったという。旅館のそばを流れる途別川の清流、白雪の十勝岳、石狩岳が見え、また庭先からは驚くべき老木の立ちこんだ荒々しい林が斜面の丘となり、ちょうど紅葉の盛りであった。茫然とこの不思議な林に見入っていると、木の深みの中から啄木鳥かひき、椋鳥などが美しい羽根を広げて悠々と遊んでいるのが見られ、妻を起こしたと言う。

今朝早々にこの宿を逃げ出そうと思っていたのが、この林を見るとともに消えてしまい、朝食の席で懇々として妻に転宿の不可を説く。

こうして妻と昼夜散歩、入浴のくり返しで、その間「創作社便」「北海道行脚記」などを書きこみながら、五日目の二十二日この不思議な、そして思い出

の深い宿を去り、帯広の北海館に入ったのである。

三 若山牧水の歌碑

昭和十二年三月黒田旅館の閉鎖により、牧水ゆかりの地に有志の手で歌碑を建立することになった。碑石は厚さ三十八cm、高さ一m五十六cmの自然石で初め「うす紅に葉はいちはやく…」が候補にのぼったが、牧水の直筆という要望から「幾山河…」の短冊を借りて刻字をし五月三十日に除幕をした。その後、歌碑を依田公園内に移転したのが昭和四十七年の暮のことである。

四 東郷町と友好町盟約

昭和四十八年五月に牧水歌碑移転鎮座式を両町出席のもとで行い、昭和四十九年二月八日友好町盟約書の調印式を東京の全国町村会館で行い、今でも両町は議会議員、職員、中学生等の交流を行っている。

五 感想

没後七十周年記念牧水顕彰全国大会は、関係者のご努力により、各地から多くの参加者を得て素晴らしい感動の中、盛会裡に終了しましたことに心から敬意とお喜びを申し上げます。これからも地域の文化振興に寄与されますことを祈っております。

五所川原市

助役 菊池富美雄



若山牧水が初めてこの地を訪れたのは、大正五年三月のことだった。奥羽本線大釈迦駅に降り立ち、出迎える人々と駅前旅館で一献傾け、本市までの道のりは生涯はじめての乗馬である旨を告げられた。このことは、豪放磊落でもって知られる牧水にしても、いかほどか肝をひやしたのではないかと、今にして偲ばれる。

また、中央歌壇の寵児である牧水を迎えるこの地の歌人らの待ち焦がれる情景が、いとも容く昨日のように想像できる。

牧水の来青のきっかけは、本県歌壇草創期の指導者である当市出身の加藤東籬や和田山蘭との長年にわたる親交からである。とりわけ、山蘭との現存している数百通の交遊書簡から、共に創作活動に打ち込みたいとの願いで山蘭が上京したこと、歌誌発行

にあたって山蘭は重要な役割を果たしていたことなどが推測される。

すなわち、書簡から、牧水が『創作』に代わる雑誌『自然』の発行を希い、「肝胆相照らすの意気のもとに、共にこのことに当たりたい」と山蘭に深い信頼を寄せており、また「山蘭のバカ野郎、喧嘩がしたくば出てこい」と挑発する、いわば人間味溢れる牧水像が見受けられ、牧水と山蘭との心の友としての交遊が私共の感動を誘う。

昭和二十七年に、本市詩歌関係者の発意で牧水顕彰歌碑を建立しようという運動が惹起し、当時老齢の山蘭が自ら歌碑の揮毫を買って出、完成披露式では感激のあまり涙していたことなど鮮明に焼き付いている。つまり、私も、当市の文化・青年団体の一員として歌碑建立運動に携わっていたからである。

このような縁から、平成八年八月に本市で「全国牧水サミット・フォーラム」を開催させていただきましたが、全国各地の関係各位多数のご臨席のもと、牧水や牧水文学のもつ今日的意義やこの地の文化人の壮大なロマンやバイタリティを再認識したところである。

このイベントを契機に、市民の間では、ふるさとの歴史や文化を再発見・再評価せんとする機運が急激に醸成されつつある。

昨年、約一世紀ぶりに復元し、東京ドームで運行・展示した、この地ねぶたの原型ともいえる立俣武多（たちねぶた）は、文化再評価機運が市民運動へと昇華した代表的な事例である。

今、津軽の大地は、寒風凍土の中にある。しかしながら、旅と酒、そして自然をこよなく愛した不世

出の歌人牧水の津軽賛歌である「橋の鈴戸の面に聞ゆ旅なれや津軽の国の春のあけぼの」を屈指し、この地が牧水の旅程の一つであったことの誇りと幸せを噛み締めつつ、事に当たりたいものと密かに決意する今日この頃である。



千本浜の歌碑前で深井正哲西町長(左) 菊池助役(中) 外崎五所川原市教育次長(右)

秋田市

市長 石川錬治郎



酒と旅を愛した偉大な歌人、若山牧水の没後七十周年を記念した「牧水顕彰全国大会」に出席する機会をいただいた。全国から集まった多くの牧水を慕う方々の情熱、パワーに圧倒された二日間であった。思い起こせば私が牧水ファンになったのは学生時代、文学青年を気取っていた頃に始まるが、それは歌もさることながら四十三年間の短かった牧水の生き様に大いに感銘を受けたからであった。それが、数十年後の平成七年に秋田市で開催された日本酒の全国大会の挨拶において牧水と秋田の酒の係に触れたことをきっかけに、延岡や沼津の顕彰会の皆さんと知り合え、さらには県内初の牧水歌碑を建立する事につながり、今回の大会参加など牧水との結びつきがさらに強固になったわけである。

牧水と秋田の関係について今一度触れてみたいと

考える。牧水は大正五年四月と翌六年八月の二回、秋田市を訪れているが、二回とも懇親の場で秋田の美酒を味わいながら即興の和歌を何首か詠んで帰られた。この中で本市のシンボルでもある千秋公園を詠んだ「鶉めじろ山雀つばめなきしきりさくらはいまだひらかざるなり」を、先に述べたとおり延岡の皆さんをはじめ地元のリオンズクラブなど多くの方々の協力を得て、歌碑として千秋公園に建立することが出来た。秋田には牧水顕彰会というような組織は現在ない状況であるが、牧水に熱き思いを寄せ市民も少なくはない。遅ればせながらこの思いをさらに大きくする意味からも、ちよど市制施行百十周年を迎える平成十一年十月に秋田市で「酒と和歌のフェスティバル」を開催すべく準備に取り組んでいるところである。

内容については、酒を愛した牧水にちなみ①酒に関する和歌を全国から募集し、優秀な作品の表彰②和歌や酒に関する講演会③長男旅人氏との親子歌碑制作④秋田の美酒と名物料理を味わうパーティー⑤造り酒屋の探訪等を計画している。このイベントにより酒と和歌の文化を秋田から発信し、牧水の顕彰にいささかなりともつながる事が出来れば幸いと考えている。どうぞ全国の牧水とお酒の好きな皆さんにお集まりいただき、秋田の秋を堪能していただきたいと願っている。

最後に、このたび「牧水顕彰全国大会」を大成功に導いた理事長の林さんをはじめとする沼津牧水会の皆さん、また、沼津市教育委員会のみなさんのご労苦に感謝と敬意を表するとともに、各地域の牧水顕彰会のみならずの発展をお祈りする。



歓談する石川秋田市長、延岡市の川並会長、中原中也記念館（山口市）の福田百合子館長、林理事長、菊池五所川原市助役

中之条町

中之条町歴史民俗資料館館長

唐澤 定市



平成十年十月二十日、群馬県草津温泉から六合村を経て沢渡温泉に至る暮坂峠で牧水祭が開催された。天候不順のため紅葉は例年ほど鮮やかな彩りを見せなかったが、牧水の令孫榎本篁子さん（沼津市若山牧水記念館長）ご夫妻の御出席をいただき、ごあいさつを頂いた。

平成十年は、牧水没後七十周年にあたり、牧水生誕地宮崎県東郷町坪谷の牧水記念館や、住居のあった沼津市の牧水記念館で牧水顕彰全国大会が開催された。暮坂峠牧水祭の三日前の十月十七日、沼津東急ホテルの牧水顕彰全国大会に出席させて頂き、牧水縁の地からのメッセージとして、暮坂峠の枯野の旅詩碑と牧水祭を報告したが、私の想像以上に沢山の人が集まり、北から南から様々な報告を聞き、全国の顕彰活動の様子やそれに携わる人たちとの交流の中で、全国で唯一の詩碑である暮坂峠枯野の旅詩碑と牧水祭を大切に続けて行きたいと思った。

暮坂峠を越えて花敷から沢渡温泉に至る旅は、大正十一年十月二十日である。その前日、草津の宿を出て六合村小雨をすぎ、峠道にさしかかったところで道が二つに分かれ小さな道しるべがたついていた。右沢渡温泉道、左花敷温泉道とあり、以前、花敷温泉について「彼処にも一つ温泉がある。高い崖の真下の岩のくぼみに湧き、草津と違って湯が澄み透つて居る故に、その崖に咲く躑躅や其他の花がみな湯の上に影を落す、まるで底に花を敷いてゐる様だから花敷温泉といふのだ」とあり、花敷と言う優しい名称に引かれて道をかえて花敷温泉で一泊した。翌日（十月二十日）は朝早く宿を出て、あたりを見る

と雪が降っていた。

ひと夜寝て わが立ちいづる山かげの
いで湯の村に 雪ふりにけり

花敷から暮坂峠を越えて沢渡まで約三里の道程を歩いて、正午ちかくに沢渡の正栄館に着いて、昼食を取り四万温泉へゆき、一泊している。沢渡について「此処は珍しくも双方に窪地を持つ様な、小高い峠に湯が湧いてゐるのであつた。無色無臭、温度もよく、いゝ湯であつた。此処に此儘泊らうか、もう三四里を歩いて四万温泉へ廻らうか、それとも直ぐ中之条へ出て伊香保まで延ばさうかと二人していろいろに迷つたが、終に四万へ行くことにきめて、昼飯を終るとすぐまた草鞋を穿いた。」とあり四万に一泊してから渋川に出て利根に向かう。

暮坂峠にて、詩「枯野の旅」が創られた。若山牧水は、歌人として有名であるが散文や詩も残している。しかし、歌碑は数多くあるが、詩碑は全国でも暮坂峠の「枯野の旅」詩碑のみである。黒花崗岩に

活字体で碑文が刻まれている。

詩碑建立は、昭和三十一年に発足した牧水詩碑建設委員会（代表 町田浩蔵）によつて進められ、翌年十月二十日喜志子未亡人をはじめ長男若山旅人氏・弟子大悟法利雄氏・牧水の親友佐藤緑葉・野田宇太郎氏などの参列を得て除幕式が挙行されている。碑の上に、和服姿にきやはん草鞋履きで二重回しを着て、中折れ帽をかぶりコウモリ傘をついた旅姿の像が立っている。作者は彫刻家西常雄氏（新制作協会）である。この碑をはさんだ草津から中之条までの路が牧水コースと呼ばれるようになった。

牧水は、旅を愛し旅に関する歌や紀行文が多く、代表的な作品がある。西行や芭蕉は、旅の先々で名所旧跡を訪ねているが、牧水は何よりも自然を愛し自然に親しむ旅であつた。

若山牧水没後七十年の今日、「みなかみ紀行」は、自然に親しむ旅の楽しさを教えてくれる一冊であり座右の書として愛読している。



中之条町歴史民俗資料館
（昭和57年11月6日開館）

明治の洋風建築で県指定の重要文化財。白壁の館内には郷土資料約6千点を展示している。

平成10年10月1日～11月23日 企画展
「若山牧水と吾妻」 枯野の旅を開催。

六く合に村

前教育長 中沢 久吉



牧水生誕の地宮崎県東郷町での牧水サミットが平成四年十一月十日〜十一日開催され、群馬県六合村から助役安原義治、教育長中沢久吉(小生)、観光協会長市川昭次郎、花敷温泉関晴館(牧水の泊った館)の主人関真の四名が参加したが、意義あるシンポジウムであった。

そして今回は牧水終焉の地沼津市において開催された「牧水顕彰全国大会」「沼津牧水祭」に妻と共に参加させていただいた。全国から六百余名の参加があり大盛会で、いやが上にも牧水の魅力の偉大さに敬服した次第です。

なぜこのように牧水に親しみがあるのでしょうか。それはなんと言っても自然に親しみ、自然をこよなく愛し抜いてきた人だからではないでしょうか。千本松原の保存運動一つとり上げてみてもそうです。もし伐採されていたら今どうなっていたらどうか、考えてみても背筋が寒くなる思いがします。

我が村に目を転しても全く同感です。植の木の太

木を何にもならぬ醜の木といって枯死させ、弱々しい落葉松の苗を植える等して自然環境が変ってしまつたことは残念です。
大正十一年十月二十日牧水が暮坂峠を越えたことにちなみ、詩碑除幕式が昭和三十三年の十月二十日に行われて以来、毎年この日を期して「牧水まつり」が行われている。

まつりは、中之条町牧水詩碑保存会が中心となり、

枯野の旅

乾きたる

落葉のなかに栗の實を

濕りたる

朽葉がしたに橡の實を

とりどりに

拾ふともなく拾ひもちて

今日の山路を越えて來ぬ

長かりしけふの山路

樂しかりしけふの山路

残りたる紅葉は照りて

餌に餓うる鷹もぞ啼きし

上野の草津の湯より

澤渡の湯に越ゆる路

名も寂し暮坂峠



六合村有志、同村観光協会、草津町観光協会の協賛を得て、詩碑への献酒と詩碑前での「枯野の旅」の朗読、コーラス、詩吟の披露等が行われる。名物のなめこ汁も人気がある。

なお、詩碑の除幕式に招かれた喜志子夫人は次の歌を詠んでいる。

碑の上に刻まれて佇つ旅姿生きていま其処に立つかと思ひし

所沢市



健海と牧水の
碑を守る会
会長
仲辰雄

若山牧水が昭和三年に亡くなられて七十周年にあたる平成十年十月十七、十八日の両日、静岡県沼津市で「牧水顕彰全国大会」が行われ、わが所沢市からも「健海と牧水の碑を守る会」(会員二百十人・仲辰雄会長)を代表して出席させていただきました。

私たちはこのような大規模な大会にお招きいただくのは初めてのことで、全国の牧水ファンと一堂に会することの意義の大きさをあらためて認識致しました。代表の幹部五人はみな大いに勉強させていただきました。代表の幹部五人はみな大いに勉強させていただきます。

この日全国津々浦々から集まった参加者は、若山牧水の歌碑が建立されている自治体や顕彰会など牧水に心酔して顕彰活動を推進している六百数十人。折からの台風による悪天候にもかかわらず会場の東京ホテルに馳せ参じた様子を目のあたりにして冒頭から驚かされました。

大会では各地域から若山牧水との由来や各地の特色を生かした顕彰活動の発表が行われ、短歌を好み酒を愛した大歌人・若山牧水が随所に残した功績と大きな足跡に認識を改めました。懇親会では、初対

面ながら酌み交わされる杯の往来が激しくなればなるほど共通の話題に花が咲き、時の過ぎるのさえ忘れてしまうほどでした。

翌日の碑前祭では、牧水の霊が眠っている乗蓮寺で、牧水ご夫妻と旅人ご夫妻の墓前にお線香があげられ、参列者全員で合掌、冥福をお祈り致しました。この後、千本浜公園の歌碑には多くの参列者による献酒が行われ、酒を好んだ牧水らしい趣向もこらされていました。また、記念館では数多くの催物や陳列品を見学させていただきましたが、若山牧水がまだこの世のどこかで酒でも酌み交わしているのではないかという錯覚に陥るほど私の五感に刺激されたのでした。

最後に、私たち所沢市の顕彰活動を簡単にご紹介致します。昭和二十五年、所沢市は周辺町村と合併して誕生しましたが、それ以前は富岡村という農村地帯でした。この富岡村の神米金で若山牧水の祖父・健海が誕生しております。後に蘭学を修め、西洋医学を学んだ方で、宮崎県の東郷村坪谷に移り、名医として地域医療に貢献されました。

若山牧水の歌人としての足跡と併せまして健海の功績を讃えるための碑を建設しようとの運動が起きたのが昭和三十三年。それから紆余曲折がありましたが、牧水の没後五十年にあたる昭和五十三年ようやく、健海の生家敷地内に自然石の歌碑が建立されました。

それ以来、富岡地区住民の心のこもった歌碑の保存管理活動や牧水を偲んでの研修旅行などを実施してまいりましたが、これからも地域文化の振興発展のためさらに継承していく所存です。



大いに盛り上がった懇親会



懇親会で挨拶する斎藤市長

東京牧水会

事務局長 田原 大三



昨年十月に行われた「牧水顕彰全国大会」の成功をお祝い申し上げるとともに、関係各位のご尽力に敬意を表したいと思います。

今大会で、各地の顕彰会が「牧水祭」を年中行事化しており、現場からの報告を「今尚」「また更に」の感強く、嬉しくそして有り難く聞きいった。互いにその再確認を喜ぶかのような会場の賑わいは、今後の顕彰活動に大きな励みを与えてくれた。

ふるさとの日向の山の荒溪の流清うして
鮎多く棲みき (『黒松』所載)

ご存じのとおり、牧水が少年時代に日向之国東郷村坪谷川で鮎釣りをした思い出の歌。牧水と故郷を同じくする在京宮崎県人の有志で平成二年におこし

た「東京牧水会」も十年目を迎えようとしている。設立趣意を説明するため若山旅人先生を立川にお訪ねした時「父牧水の故郷人が起こした東京牧水会は有り難い」とご理解を示され、名誉会長をお引き受けいただいた。その上、発会式にはご夫妻でご出席くださり、その後の会合でも毎回ご講演くださった。

牧水の故郷日向のことを当会誌『谿流』のなかで次のように語られている。

「道端のコスモスの花に射し込む秋の陽が花瓣を透かしてその下の花まで明るくさせるこの澄んだ秋の気には私は打ちのめされる思いだった。考えれば牧水はこの日向の秋の澄明さを吸って育ったのだ。牧水がこの世に遺した各紀行文を見て、秋になると旅に出てみたい心が自分を落着かなくさせると云うのは、この「秋」の事なのだ。山に分け入りたい谷を涉りたい尾根を辿りたい、その憧れのすべてが自分の幼時を懐かしむ望郷の思いだった事が判って来る。」

同郷だから、牧水の「歌を」「心を」ごく普通により深く理解出来る部分もある。しかし全国を旅し、各地での自然や人々との出会いを愛し歌った牧水を知るには、それだけでは不十分である。幸い、東京には全国各地からの人々が故郷を心に生活しており、父母・友人を、そして故郷・自然を歌った牧水の歌に心打たれ感動する人が少なくない。

お陰様で当会にも、北海道・埼玉・千葉・静岡等宮崎県出身以外の会員も増えつつあり、「東京」を活かした牧水の顕彰に努めたいと願っている。



勢ぞろいした土肥町観光協会の皆さん



歓談する田原事務局長

横須賀市

北浦観光協会会長 青木 栄治



青木 栄治

牧水の故郷宮崎県東郷町での「牧水サミット」以来の全国大会でしたが、事前の準備、連絡、実施には大変ご苦労様でした。

全国の関係者が一同に会しての会合は、牧水関係者の交流を深める上で、その意義と親しさを実感いたしました。ありがとうございました。

北下浦における若山牧水顕彰活動の概要について紹介いたします。

一、歌碑建立

(一) 若山牧水夫婦歌碑

場所 横須賀市北下浦長沢海岸

建立 昭和二十八年十一月三日

歌 (表) しら鳥はかなしからずやそらの青海
のあをにもそまざただよふ 牧水

(裏) うちけぶり鋸山も浮び来と今日のみ
ちしほふくらみ寄する 喜志子

(二) 若山牧水文学碑

場所 横須賀市長沢二一六八

建立 昭和六十二年十一月三日

歌 海越えて鋸山はかすめども此処の長
浜浪立ちやまず 牧水

二、北下浦牧水まつり

昭和五十三年牧水没後五十年祭を機に、歌人牧水の追慕と顕彰のため、毎年九月十七日(牧水忌前後の休日)に「北下浦牧水まつり」を実施する。

(一) 短歌会

新聞、市広報等により広く短歌を募集し
選者(若山とみ子先生)により入選七首
佳作三首を選び碑前祭に於て表彰する。

(二) 碑前祭

遺族を招き碑前祭を行い、献花、献酒、
遺族来賓の挨拶を行う。

三、文化講演会

機会をみては「歌人若山牧水」の講演会(太田
青丘氏など)を開催する。

四、若山牧水記念スタンプ

五、牧水顕彰全国大会参加



各地から集まった皆さんとの楽しい懇談風景

岡山県哲西町

哲西牧水顕彰会会長 羽場 幹恵



第一部「牧水ゆかりの地からのメッセージ」

バスの旅は八時間余り、大会は始まっており、到着するやいなや壇上へ導かれ、広間を埋める人達の多さに圧倒されました。隣席の川並会長さんに会の流れを聞いてひと安心いたしました。

牧水親子の歌碑、熊谷屋復元、唄芝居牧水の公演、短歌交流の集い、牧水街道ウォークラリー等のとおり組みを絵や写真で紹介させていただきました。

全国十二市町村からのメッセージは、時間不足で少し惜しい気持ちがありました。

第二部「岡村喬生の歌の旅」

オペラ歌手のトークを交えながらロシヤ民謡やイタリヤ民謡の生の歌声に酔ってしまいました。岡山県北では味わえない事です。ピアノの松川さんとの息もぴったりで、心に残るひと時となりました。

「交流会」

夕食は、立食の歓迎パーティーを催してください、牧水を愛する人達の交流会となりました。

深井哲西町長が、短歌を通して豊かな町づくりをめざし、近い将来、全国大会を開くよう努力すると挨拶され、心強く思いました。「遠いけど来て良かった。」と、年若い友は感激ばかり。

「碑前祭」

翌日は、小雨の中を乗蓮寺の牧水と旅人氏の墓にお参りして、線香を手向け、唄芝居「牧水」の初演において下さった旅人氏を偲びました。

その後、千本浜公園の牧水歌碑に献酒しました。松葉が桶に浮かんでいて、千本浜を愛した牧水の心がここにあるかのように、一瞬はつといたしました。中学生の短歌表彰では、沼津の明るい未来が感じられ、わが町のありようを思いました。津軽三味線や和太鼓に耳目を奪われながら戴いた抹茶の味も忘れられません。昼食は、手料理をいただきながら、即席の短歌も発表され、楽しい情報交換会となりました。見送りまでして下さった榎本館長ご夫妻、沼津牧水会の皆さん、ありがとうございました。お陰様で、私達十五名は牧水に心を通わせながら、大勢の方達と親睦をはかることができました。

今後は、熊谷屋や歌碑周辺の整備はもとより、短歌教室の充実を図るなど、近い将来の「牧水サミット」開催に向けて、積極的にとり組む必要を痛感しております。

終りに参加した皆さんの短歌を紹介します。

台風のさ中沼津の歌碑祭に牧水偲ぶ七百人

小山幸子



哲西町から大勢でやって来た皆さん

牧水を慕う人ら七百人と沼津の情にひと夜出会いぬ
前田千栄子

はるばると沼津の今宵牧水を愛する人等と牧水に酔う
羽場生枝

牧水の終焉の地沼津にて墓碑をあをぎぬ雨に濡れつつ
宮田泰枝

たゆるなき松籟歌碑に注ぐべし千本松原冬ざれの日も
三上成恵

延岡市

若山牧水
延岡顕彰会会長

川並 俊一



牧水を慕う友がぎ交々^{こもも}に
思ひあふれてここに集へり 俊

十月十七日朝、「台風十号日本列島直撃」の予報を案じながら、沼津市に於ける「牧水顕彰全国大会」に出席した。

午後二時開会予定の会場は、すでに昼前から多くの人々の熱気につつまれていた。それもそのはず、おたがい「牧水を慕う心」を共有する同志たちの集まりであったから。

大会のメインである「牧水ゆかりの地からのメッセージ」では、全国十二地域からの代表が選ばれ、そのかわりを発表し合う企画であったが、何しろそれぞれに溢れる思いを語りつくすには、制限された時間内では存分の発言の余裕がなかったのは残念であった。しかし、主催者側の懸命の努力ぶりに感じてか、一切不満の声は聞かれなかった。

私も用意したことの半分も発表できなかった。こ

んなことを言いたかった。

牧水という人は根っからの日向人。素朴純情なお人好しで、気取らず気張らず、その風体・逸話からも分かるように、身分・肩書きに一切かかわらず、だれをも同じように愛し十年の知己のように付き合った。また、自然を慈しむこと我が子のごとく、自然との共生を一生貫いた生きざまは、百年後の今を予見している。

夜の交流会は文字通り和気あいあいの盛況をきわめた。同じ心情の触れ合いがかくもたちまちにして融け合うものかと驚き、また感動のひとつであった。私たちは、牧水が明治二十九年（十一才）から三十七年（十九才）までの延岡での青春時代が、いかに将来の人間形成と文学素養の基礎づくりに重要な位置を占めているかを強調することに努めた。

そして晩年、牧水が「私の少年時代の延岡は、内藤備後守といふ御譜代の殿様の城下町だけに、寂しいけれど上品なところのある町でした」と、述懐していることも紹介した。

翌十八日は、「台風は北上」の情報あり、昼前から青空が見えるようになった。朝小雨のなか菩提寺乗運寺に参詣し、千本浜公園の第一号「幾山河」歌碑に献酒した後、記念館での式典・懇親会に参加して、二日間わたる大会行事が閉幕した。

その日、台風の余波を残す駿河湾の潮騒と千本松の松籟は、晩年の牧水の心情に触れる思いあり、感無量であった。

駿河湾あらし潮騒に身をさらし

見えぬ富士が嶺に真向ひて立つ

俊



千本浜の歌碑前に集う参加者たち



石川秋田市長と川並会長

日向市 渡邊 邦彦

日高牧水顕彰会会長



台風十号の接近で飛行機の発着が心配されたが、十七日宮崎発の朝の便は定刻出発、昼過ぎには会場の東急ホテルに着いた。定刻午後二時開会。主催者挨拶の後、第一部の開幕。全国各地で牧水の顕彰活動をしている団体の代表十二名が登壇し、その状況を発表。第二部では、オペラ歌手の岡村喬生さんが「世界の歌と牧水をトークでつづる」と題して美声を披露し、聴衆を魅了。格調高いステージに私は深く感動した。次は会場を移動して交流パーティー。なつかしい人との再会を喜び合い、初対面の人々とも交流の輪が広がりが会場は大いに盛り上がり、遂には第二次会場まで設けられ、参加者は夜の更けるのも忘れて歓談した。

明けて第二日、用意されたバスで乗運寺へ。牧水夫妻が眠る墓前に線香を供え、千本浜公園に向かう。牧水歌碑に榎本篤子さんが献酒、つづいて我等も順次に献酒を行い、牧水記念館へ。会場のひな壇には、牧水の旅姿のミニ全身像（奥村良弘作）が置かれ、

その傍に「幾山河」の掛軸が掛けられている。中学生短歌入選者の表彰、合唱、献花、献酒とつづき、太鼓保存会の皆さんによる演技では雄壮なる音が館内に響きわたる。出席者にはご馳走が振舞われ舌鼓をうつ。前日には会えなかつたなつかしい人達とも再会でき、旧交を温めた。

かくして二日間の全日程は盛会の裡に終了。牧水終えんの地で、没後七十年を記念して行われた全国大会実行委員会の方々のご苦労に敬意を表しつつ、沼津を後にした。

その夜は彫刻家奥村良弘氏に誘われ函南町のアパートへ。ダイニング・キッチンに忽ち居酒屋に変身、自由放談「牧水談議」は果つるを知らず。翌十九日、「温泉へ」ということになり、自家用車で駒の湯温泉郷に登り、「源泉荘」に入る。広い浴室、浴客は数名。気分爽快。再び函南町に戻り、柿沢川河畔に建つ牧水歌碑を訪ねる。「長湯して飽かぬこの湯のぬるき湯にひたりて安きころなりけり」。ここで一旦アパートに帰り、二人分のおにぎりを作って裾野市へ向う。市立鈴木図書館、市民文化センターを訪ねたが、休館日で残念。文化センターの牧水歌碑前の芝生の上に座りこみ、持参したおにぎりを頬張る。最高の味。三島駅まで奥村氏に送ってもらい、ここで別れる。私は所沢に向った。実はこの日の朝、寝床の中で所沢行きを思い立ち、「健海と牧水の碑を守る会」の仲会長に電話をした。新宿を経て所沢についた時は既に日暮れ。仲会長の出迎えを受け、神米金の健海師生家跡へ直行。同家では若山芳男氏（当家第十代）のほか「守る会」の役員の方々が待っていておられ、屋敷内に建っている歌碑の前で写真撮影等



沼津牧水会の会員と談笑する渡邊会長



歌碑に献酒する榎本館長

の後、町の食事処で歓迎会があり、感激の一夜を送った。翌二十日は午前中芳男氏の案内で若山家祖先の墓地等数か所を巡り、皆さんのご厚情に感謝しながら所沢を離れ帰途についた。かくして四日間の旅は無事に終わった。

東郷町

助役 山本 一正



郷土の歌人若山牧水の没後七十周年を記念して「牧水顕彰全国大会」並びに協賛事業として「沼津牧水祭」が、牧水が晩年を送った静岡県沼津市で開催された。

東郷町長の代理として、私と歌原教育次長が出席した。

あいにく、台風十号が九州に接近していたので、急遽予定を変更してJ-R列車を乗り継ぎ、沼津市に到着した。

沼津市を訪問するのは、初めてである。

ホテル到着は、午後七時。林理事長、小池文化振興室長が待っていてくださった。

大会関連の概要の説明を受けた。

十七日の全国大会では、牧水ゆかりの地から代表

十二人が選ばれ、林理事長の絶妙な司会のもと、各地から牧水顕彰活動が報告された。

しかし、時間が少なく各地の活動状況が詳しく聞けなかったことが残念であった。

本町の顕彰活動について報告します。

「牧水のふるさと東郷町は「二十一世紀にはばたく牧水のふるさとづくり」を指標にまちづくりに取り組んでいます。

町内には、昔のままに牧水の生家が保存されており、その隣には、牧水の長男旅人氏の設計による牧水記念館、坪谷川をはさんで対岸には牧水公園、牧水庵など牧水にまつわる施設があります。

①若山牧水顕彰会

昭和二十六年九月設立されました。牧水顕彰会は、牧水生家、牧水記念館の管理運営、そして牧水祭を開催しています。

②牧水祭

毎年九月の第二日曜日に開催しています。牧水記念館裏の歌碑前での歌碑祭、献酒、児童合唱、公募短歌の表彰、写真コンテスト、交流会を行っています。

今年も、牧水七十回忌記念の第四十八回牧水祭となりましたので、前夜祭をとりいれまして、郷土芸能や花火大会を行いました。

又、偲ぶ会では講演を行う等、七十回忌にふさわしい牧水祭を開催することができました。

③牧水顕彰事業

(イ) これまでに東郷町が取り組んできた牧水顕彰事業



荒天のため記念館ラウンジで行われた碑前祭で挨拶する斎藤市長と榎本館長

○昭和六十年十月 牧水生誕百周年祭実施

・役場庁舎前に歌碑「うす紅に…」建立。

・母校坪谷小学校に歌碑建立。その一角が牧水ヶ丘と名付けられ、毎年牧水ヶ丘祭りを開催。今年は第十三回を迎えた。

○平成三年三月 牧水公園に牧水銅像を建立。

これを記念して「若山牧水全国歌碑集」を編集した。

○平成七年九月 牧水生誕百十周年事業として

「若山牧水の生涯」のビデオ制作。
牧水公園に歌の小径を整備、歌碑を十二基建立した。

○平成八年十一月 第九回全国健康

福祉祭みやぎき大会（ねんりんピック）の短歌大会が牧水公園等で開催された。

○牧水の未発表の手紙と短歌が見つかりました。

平成十年九月十六日 発表

手紙 六通、短歌 四首

(ロ) 若山牧水賞について

宮崎県が若山牧水の生誕百十年を記念してその偉大な業績を永く顕彰するため、宮崎県教育委員会、延岡市、東郷町及び宮崎日日新聞社との共催により「若山牧水賞」を創設しました。

選考委員は、大岡 信、馬場あき子、岡野弘彦、伊藤一彦の各氏。

第一回受賞者

高野公彦氏 平成九年二月受賞式

受賞作品 歌集「天泣」

第二回受賞者

佐佐木幸綱氏 平成十年二月受賞式

受賞作品 歌集「旅人」

第三回受賞者

永田和宏氏 平成十一年二月受賞式

受賞作品 歌集「饗庭」

牧水の顕彰活動は全国にひろがりを見せている。

本町における顕彰活動は現状のままでよいのか議論してみることも大事である。

全国大会に参加したことで多くの皆様と出会えたことに感謝しています。



平成7年の生誕110周年記念牧水祭のパムフレットから



沼津合唱団有志による牧水歌の合唱



記念館ラウンジでの鏡開き

第45回 沼津牧水祭

碑前祭・芝酒盛

十月十八日(日) 午前十一時
牧水記念館ラウンジ

昭和五十一年以来毎年秋空の下での碑前祭であつたが、第四十五回目の今年は台風十号の影響を受け、会場が恒例の千本浜公園の「幾山河」歌碑前から記念館ラウンジへと変更になつた。

開会に先立ち、榎本篁子館長が碑前にて献花・献酒を行う。ちょうど雨も一時止み、前日の牧水顕彰全国大会に出席の遠来のお客様も参列し、碑前での記念写真撮影の後、記念館へ移動する。

雨による会場変更も三十年ぶりのことゆえ、関係者も戸惑いながらではあつたが、ラウンジ内の家具備品を片付けて会場が整備され予定どおり開会。東海庵青龍師による献茶、林理事長の挨拶に続き、榎本館長が館長就任のいきさつを含めての挨拶を行う。来賓の斎藤衛沼津市長、五月女武教育長の祝辞をいただく。ラウンジ北の大型ガラス前には「幾山河」の軸が掛けられ、若山旅人前館長から寄贈さ

れた牧水のブロンズ像(奥村良弘作)が置かれた。会場が手狭なため舞踊、詩吟は残念ながら中止。中学生短歌コンクールの入選作品の表彰につづいて沼津合唱団有志による合唱鏡割りの後、山本一喜市議会議長の乾杯の発声で、館内はいつもの碑前祭と同じ雰囲気になる。

会議室でも、全国大会の参加者を囲んで、前日に引き続き話に花が咲いた。ラウンジのカーペットの上での酒盛りは野外の芝生の上



中学生短歌コンクール入選作品の表彰



と趣が少し違うが、大いに盛り上がった。

余興は、加藤武夫氏の津軽三味線と二つの太鼓による演奏だけであつたが、館内に太鼓と三味線の迫力ある曲が流れ、宴は最高潮に達した。

牧水顕彰全国大会にちなんで特別に企画した千本浜での網曳き、久しぶりのあじの干物の焼き物サービスが雨天で中止になったことが惜しまれる。

(碑前祭実行委員長 金子安夫)

短歌大会

十月四日(日)
午前十時三十分

沼津市立図書館の十時の開館を待ちかねる

ように、県東部一円から百五十名もの方々が集い、牧水祭短歌大会は行われた。応募作品は二百三十三首。今年の講師は「コスモス」の選者、田谷銳先生。先生は歌会に先立って『私の工夫』と題して講演。各種のカルチャー短歌教室、新聞雑誌の短歌の選、コスモスの運営に関わる中での経験を通して、短歌を詠む者の心掛け、さらに短歌を読む立場の思いを諸語を交えながら諄々と話された。

要約すると「人を愛するところ」「人を大事にするところ」を力説。「現代に働く者の姿に敬虔と愛情を持って接すれば、そこから、見えないものが見えて来る」と語られた。見えないものを見る楽しさは難しい課題だが、大事な示唆として私達の指針になるように思った。また「古典を大事に」を強調。「万葉集全巻読むと歌がよくなる」と例を挙げて語り、「短歌の上達の目標を現代歌人に置かない方がよい、古典の中の歌人を見習うべきだ」と含著を傾けて語られた。

午後の歌評は懇切丁寧に問題点を指摘。三時間余りを語り通し、参加した多くの方に満

足を与えてくれたと思っている。以下、田谷先生の選ばれた牧水賞三首と他七首及び互選の上位の作品を記録として記す。

田谷銳氏選

みどり児のほほえみのやうな香りたつ丸かじりするモスクワの林檎 富士市 勝山多美子
何時よりか車発進おだやかとなりし中の子不惑迎ふる 千葉市 篠崎 初枝

びしょ濡れの汗の作業衣土間に投ぐ兄はみかんの摘果終へきて 浦安市 丸山 昌子
亡き父の如く夫も背伸びして捻子巻きてをり柱時計を 伊東市 石井 礼子

となり家に孫来るらしほうほうと鳩笛の音夕ぐれを呼ぶ 清水町 鈴木 利子



麻酔より覚めし世界のまぶしきよトルコキキょうのむらさき深し 沼津市 佐藤なほ子
電柱を素早く登る工事人螢光塗料背に光らせ 鎌ヶ谷市 細野 房子

て ラグビーに負けし子のシャツいくたびも竿に吹かれてトライの形す 佐倉市 黒岡美江子
夫たちが草津温泉に着きし頃藪草採りて蚊に螫されをり 沼津市 進士 幸子

つや出でし手摺りに体もたせつつ足効かぬ夫階のぼり行く 富士市 島崎 令子

互選上位作品

子の丈に屈みて諭すその母の声やはらかに周 相模原市 亀谷由美子
困和ます 不器用な生き方でよしはればれとさくら咲く 富士市 飯泉 千春

道子と歩みをり 富士市 飯泉 千春
生くるものみな遅しく見ゆる朝落蟬ひとつ蟻が引きゆく 中伊豆町 鈴木 藤江

くちなしの香り漂ふ夏座敷百歳の姑の眠り安けし 修善寺町 森嶋八重子
ただひとりの嬰兒なれどこの里に生氣戻ると 修善寺町 仁科 照

老等よろこぶ 修善寺町 仁科 照
シャンプーのCMの如きさらさらの髪なびかせて少女走り来 富士宮市 朝比奈須磨子

松の雄花天に向ひて直に伸び少年のやうな匂ひを放つ 菊川町 福島 房枝
(短歌大会実行委員長 須永秀生)

第11回 雑の歌会

平成十一年三月六日(土)午後一時三十分
沼津市若山牧水記念館会議室

講師 斎藤すみ子 氏

今年の雑の歌会は、中部短歌の斎藤すみ子氏を講師にお招きして、春の暖かな光の中でほのぼのと行われた。出詠歌数六十九首、出席者は四十三名。出席しなければなんのメリツトもない歌会であることが特色の歌会の持ち方を斎藤先生も感心されていた。



先生の歯切れのよい歌評は参加者を魅了し、終わった後も時間があるというところで質疑の時間をとり、さらに不参加の何人かの問題歌にも触れて頂いた。独演だけにお疲れになられたのではとも案じたが、それだけ参加者の満足感が高かったわけである。

歌評の中で特に記憶に残るのは、「射す月のひかり畳にひとところ濃ゆく揺れるは柝の影」の濃ゆくの使い方、虚子や馬場あき子先生は使っているが、文法学者は認めていないという指摘は鋭い。また「さといもの葉のまんなかに玉の露……」という表現の「まんなか」の口語仕様がゆるみになっているとか、「……富士逆光に雪の飛ぶ見ゆ」の見ゆは言わない覚悟を。見えたのだから歌ったので、これは思うと言う表現も同じと指摘。君を恋う歌「離れてはまた寄り添ひてゆく雲の空の彼方の君を恋ひをり」は、「寄り添ひてまた離れゆく雲の……」とした方がよいと言われ納得した。

考えさせられたのは「名に惹かれ花かんざしとふを求めたり二月の風にそそと薫れり」の花かんざし。花かんざしは菊科で夏の花。俳句の季語ほどには厳しく季節感を考えなくともいいが、現在のように季節感の無くなっている情況の中でも違和感の残る使い方には

気をつける方がいいと教えられた。こころしい事のひとつであろう。

斎藤先生の採られた作品五首

三代の雑を飾りて喜寿の夫幼の醸すオーラに酔ひぬ 木村 釣子

たれもたれもほらもうふつと立ち止る梅花さくらし春は見える 柴田 昌明

湖面這ふ風の姿の見ゆるがに光の粒の気まゝな流れ 杉山 公一

山裾は午後の陽だまりバス停のめぐり地を這うつるそばの咲く 塩谷千鶴子

白雲のしだいに消えてゆくまでを仰ぎいたりき小寒晴れて 須永 秀生

他に先生が佳作と言われた作品を抄出する。

近隣との交はりうすき高層に住みて自在なり背筋を伸ばす 福地 久子

思い思いに青首のぼし大根は蟲の隅の春陽樂しむ 石川つや子

此の冬も娘よりの毛布にくるまりて老の小さき夢をはぐくむ 池谷 才子

長江を下るかなたに大いなる没り陽ひとすじわが船を射す 市川美津子

世の音をぬすむが如き補聴器に春はそこそこはなやぐ鳥が 後藤 良

文化講座



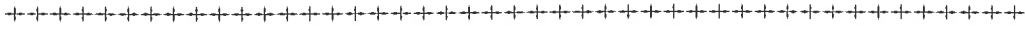
第4回
素晴らしい故郷沼津を語る会
 平成10年7月26日(日)午後1:30～ 記念館会議室

沼津の昔を語る集いは、本年で四回目を迎えました。牧水の次男若山富士人氏の幼友達で、(株)沼津牧水会の会員でもある市内在住の蔵納誠司氏を講師に招き、「牧水邸にまつわる思い出のあれこれ」と題する講座を開きました。



牧水邸での思い出を語る蔵納誠司氏

蔵納氏が子供時代に富士人氏と遊んだ千本界隈や豪邸であった牧水邸の各部屋の様子などの思い出話は、参加者の関心を呼びました。講演のあと、参加者は展示室内の牧水書齋や沼津市若山牧水記念館開館十周年を記念して制作された旧牧水邸の1/50のミニチュア模型をあらためて見学するなどし、古き良き時代へのタイム・スリップを楽しんでいました。



牧水記念館短歌会
 平成10年4月～平成11年3月
 毎月第2土曜日午後1:30～ 記念館会議室

四年前の平成七年六月から、開催してきた短歌の勉強会は、熱心な受講者二十数名の他、新入の仲間も増えて五年目に入ろうとしている。



熱っぽく語る須永秀生氏

須永秀生理事の明解な指導によって受講者は年々実力をつけてきた。牧水短歌から現代短歌まで、折りにふれては、万葉、古今、新古今、江戸時代に至る歌人の略歴や作品を解説した須永氏作成の資料によりなされる講話は好評をえている。



平成九年、受講者により合同歌集「せんぼん」がまとめられたが、近くその第二号が発刊される予定である。勉強会の益々の発展が望まれる。

若山牧水の歌にちなんだ

沼津市周辺の風景写真展

沼津市若山牧水記念館開館十周年を記念する特別イベントとして「若山牧水の歌にちなんだ沼津市周辺の風景写真展」が開催された。

沼津をこよなく愛した牧水は、香貫山や千本松原はもちろんのこと沼津市周辺の風景を題材にした短歌を多数詠んでいる。牧水が暮らした大正中頃から昭和初期の沼津市街の風景は大きく変貌したものの、松原越しに眺める富士山や愛鷹山、あるいは駿河の海、大瀬岬、西伊豆の山々の姿は昔と変わらない。

牧水が詠んだ「沼津市やその周辺を題材にした短歌」に親しんでいただきたいという思いの中からこの風景写真展開催の企画は生まれた。

募集の際に参考資料として、沼津市周辺を詠んだ牧水の短歌百首を提示したが、そのうち四十首の歌に計五十三点の作品が集まった。特に人気の高かった歌は「海に落つる夕日のひかり照りたればこの長浜の冬の寂びざま」で四人から作品が寄せられた。そのほか「伊

豆の国と駿河の国のあひにある入江のま中漕げる舟見ゆ」や「野のはてにつねに見なれしとは富士をけふは真うへに海の上に見つ」、「冬さびし静浦の浜の松原にうち仰ぐ富士は真白



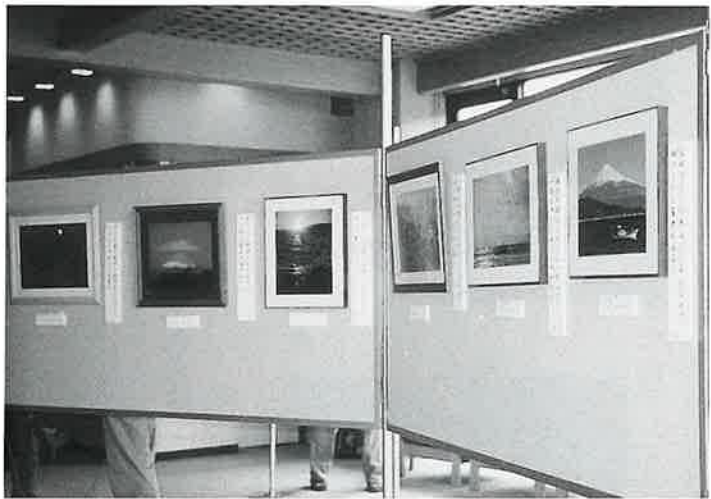
平成10年4月21日

～

平成10年5月31日



妙なり」など富士山や海を背景にした歌を題材にしたものが多かった。撮影者それぞれの視点から撮った作品は、同じ歌に寄せられたものとは思えないほどひとつひとつが個性的で、牧水の歌に対するイメージを大きくふくらませてくれた。また「紫陽花の花をぞおもふ藍ふくむ濃きむらさきの花のこひしさ」や「花園の花のしげみを抜き出でてゆたかに咲ける向日葵の花」などの歌にちなんだ作品は、



接写レンズを使い見事なまでに花の美しさを再現しており、まさにこの写真展に花を添えてくれた。

十代から七十代まで幅広い層にわたる二十名の方が応募してくださった。期間中の入場者は二千三百五十九名。写真展に思いがけず出会った入館者も、作品の前で足を止め、ラウンジから実際に眺める富士山と写真の富士



とを見比べたり、冬の海の様子などを想像したりして会話が弾み、喜んで帰られた。当初、写真と短歌を結びつけるのは難しいのでは、という心配もあったが、そんな心配も杞憂におわり、成功裡に写真展は閉幕した。「沼津市周辺の風景写真展」にご協力くださった方々にあらためて御礼を申し上げる次第である。

サロン音楽の夕べ



第1回 『チェンバロの夕べ』

日 時：平成10年7月11日(土) 午後6時45分

会 場：記念館ラウンジ

出 演：杉山 佳代

来場者：140人



第2回 『ジョイントコンサート in 牧水館』

日 時：平成10年8月28日(金)

午後7時

会 場：記念館ラウンジ

出 演：浅田朱美 (ソプラノ)

佐々木雅子 (ピアノ)

大藪旭晶 (琵琶)

来場者：100人



第3回 『牧水をめぐる歌曲演奏会』

日 時：平成10年9月25日(金) 午後5時30分

会 場：記念館ラウンジ

出 演：清水良一 (バリトン)

田尾智子 (ソプラノ)

矢島智恵子 (ピアノ)

来場者：50人

第4回 『ファゴット・リコーダー家族とチェンバロ』

日 時：平成11年3月20日(土) 午後6時45分

会 場：記念館ラウンジ

出 演：多田逸左久 (ファゴット&リコーダー)

杉山佳代 (チェンバロ)

来場者：120人



平成10年度事業報告

総会 (第12回)	平成10年 5月22日(金)午後 6時～7時	
理事会	第1回 (通算64回) 10年 4月26日(日)午後 6時～7時40分	
	第2回 (// 65回) 10年 5月22日(金)午後 5時15分～5時30分	
	第3回 (// 66回) 10年 5月22日(金)午後 6時30分～6時40分	館報発行
	第4回 (// 67回) 10年 6月27日(土)午後 6時～7時30分	第21号 10年12月10日
	第5回 (// 68回) 10年 8月30日(日)午後 6時～7時30分	第22号 11年 3月15日
	第6回 (// 69回) 10年12月 8日(火)午後 6時30分～7時15分	会報発行
	第7回 (// 70回) 11年 3月24日(水)午後 6時～7時15分	第11号 10年 6月 1日

1 調査研究事業

(1) 牧水顕彰全国大会

日 時：平成10年10月17日(土)午後 2時～5時

会 場：沼津東急ホテル

参 加 者：650人

(2) 若山牧水賞授賞式

日 時：平成11年 2月 6日(土)～2月 7日(日)

会 場：宮崎観光ホテル

参 加 者：11人

2 第45回沼津牧水祭の運営

(1) 短歌大会

日 時：平成10年10月 4日(日)午前10時30分～午後 4時

会 場：沼津市立図書館視聴覚ホール

講 師：田谷 鋭氏

応募短歌：233首

参 加 者：150人

(2) 碑前祭・芝酒盛

日 時：平成10年10月18日(日)午前11時～午後 2時

会 場：沼津市若山牧水記念館

参 加 者：約300人

3 文学講演講座の開催等

(1) 講 演

「素晴らしい故郷 沼津を語る会」

日 時：平成10年 7月26日(日)午後 1時30分～4時

会 場：記念館会議室

講 師：蔵納誠司氏

参 加 者：30人

(2) 第11回「雛の歌会」

日 時：平成11年 3月 6日(土)午後 1時30分～4時

会 場：記念館会議室

講 師：斎藤すみ子氏

応募短歌：69首

参 加 者：43人

(3) 牧水記念館短歌会

日 時：平成10年 4月～平成11年 3月 第2土曜日

会 場：記念館会議室

講 師：須永秀生氏

参 加 者：延べ174人

(4) 第9回「中学生短歌コンクール」募集・表彰

募集期間：平成10年 6月20日(土)～9月16日(水)

応募短歌：1,314首 (12校、1,314人)

入選短歌：43首 (43人)

表 彰：平成10年10月18日(日)沼津牧水祭碑前祭にて

4 特別企画

「若山牧水の歌にちなんだ沼津市周辺の風景写真展」

開催期間：平成10年 4月21日(火)～5月31日(日)

会 場：記念館ラウンジ

応募写真：53点 (20人)

入 場 者：2,359人

5 音楽イベント 「サロン音楽の夕べ」 牧水記念館ラウンジ

社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、社団法人沼津牧水会という。
- 第二条 この法人は、事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の一一に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短歌文学の普及を図り、もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会及び文学講座の開催
- (4) 文学に関する各種出版物の刊行
- (5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人の会員は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は法人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は法人
- (3) 名誉会員 この法人に特に功勞のあつた者で、総会の議決をもって推薦された者
- 第六条 会員にならうとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。
- 第七条 この法人の入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 2 この法人の会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 年額 五、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 年額 一〇、〇〇〇円以上

〈理事長〉 林 茂樹
 〈副理事長〉 杉山 光男
 〈理事〉 浅井 治 河本典司幸
 青木 朝子 保坂 輝夫 田中 和男
 八十濱俊一 須永 英男 金子 安夫 川口 和子
 杉山 芳春 四方 一彌
 〈監事〉 杉山 重義 鈴木 弘行

編集後記

年に一回発行の会報第十二号を会員の皆様にお届けする時季となりました。

牧水顕彰全国大会が平成十年十月十七日に沼津東急ホテルで開催され、全国各地から六百余名の方々にご出席をいただきました。折からの台風にもかかわらず、嵐を吹き飛ばすほどの熱気あふれる会となりました。

第一部、第二部に引き続きの交流会では、昼の部では語り尽くせなかつた思いを伝えんとする各地からの参加者とこれを迎える地元参加者との間で交流が深まり、会場は大いに盛り上がり、まさに、牧水の歌「友よ酌めさかずきの数歌のかず山のさくらの数ときそはむ」の感を呈したのでした。

翌日の碑前祭は、雨天のため急遽記念館でとりおこないましたが、室内開催のハンディを大きくはねのけ、全国大会に引き続き多彩な顔ぶれにより大盛会となりました。

この度の会報は、全国大会に各地からご出席いただいた代表の方々の玉稿を中心に「各地からのメッセージ」として特集しました。玉稿をお寄せいただいた皆様に御礼申し上げます。

なお、この全国大会を主催した沼津市、裾野市、土肥町及び事務局を担当した沼津市社会教育課文化振興室の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

牧水顕彰全国大会の開催という大きな課題を背負った昨年度は、忙しくも楽しい一年間だったように思います。本年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。